

# 練馬 今年は『さんねん峠』 歌い継ぐコスモス

練馬支部では憲法平和対策部を設けて、様々な先進的な活動を行ってきました。その中には25年以上の歴史のある合唱団「コスモス」があります。



練習をするコスモスのメンバー

「さんねん峠はよい眺め、ため息の出るほどよい眺め」。7月4日の午後、練馬支部会館3階の会議室では、外の梅雨空とは正反対で、合唱団「コスモス」のメンバーの女性たちの明るく元氣な歌声が響きます。

「8月20日に杉並公会堂で『孫たちのために平和をコンサートin2019』に出演し、『さんねん峠』というコーラス劇をやります。今日はそのための稽古です」と説明してくれたのは秋山ちづるさん。ピアノを弾きながらコスモスのメンバーを指導して6年ほどになります。「コスモス」のメンバーは10人。女性が8人、男性が2人で、団長は野



コスモスの団長の野津さん

津俊夫さん。毎月2回3時間程度、練馬支部会館で練習をしています。

## 平和で歌える世の中が大切

合唱団(部)の経験があるのは、野津さんと伊藤昭代さんだけですが、全員歌うことと平和が大好き。台東区の言問橋のたもとに犠牲者追悼碑の前で3月10日に開かれる追悼集会で献歌をしたり、練馬九条の会などが行なうイマジコンコンサートに出演したり、

また練馬区内にあるアイサイビス施設で歌を披露したりと多彩な活動をしています。また分会新聞「新とよたま」で鍛えた腕で野津さんが「コスモ通信」も発行しています。「『は』のところにアクセントはほしいよ。この日は、『さんねん峠』を作曲した岡田京子先生も指導に来訪。稽古に熱が入りました。『さんねん峠』は小学校の教科書にも使われている子どもたちにも知られる作品です。原作が李錦玉さんの朝鮮の昔ばなし。

【渋谷 看板・加藤行夫通信員】6月28日、支部「憲法平和委員会」主催で「ヒロシマに一番電車が走った」の映画鑑賞会を開きました。15歳になる少女は、戦地召集された男たちに代わり、広島路面電車の車掌でした。少女は朝の車掌業務に就く際被爆、最愛の母親と大勢の仲間を失い、ぼう然とする。しかし被爆から3日後、廃墟となった街

## 渋谷 映画で知る戦争 何もかも奪う原爆

かに鳴らして走り始めた。20人足らずの参加者でしたが、上映中は真剣な眼差しで見入っていました。鑑賞

を体と心に深い傷を負いながらも、復興のため泥まみれで働く人々のために少女の乗った電車が警笛を高く響かせる。賞後、全員が感想文を書き「一瞬のうちに何もかも失う。戦争は絶対にしてはいけない」「平和な日々を一刻も破壊します。日本はもう戦争をしてほしくない」とよせられました。電車の鐘を鳴らす少女からは、力強い使命感や優しさが感じられます。戦争に対する怒りと憎しみを力に、二度と再び、世界中どこでも、何時までも「戦争は絶対だめ」と訴えていきたい。

# 水爆実験の白い灰 展示支えた土建の仲間

多摩西部女性の会

【多摩西部・家族・福田 實歩加 記】7月28日、多摩西部支部女性の会の夏の取り組み「平和を語りつこう」に参加しました。台風が近づいていて天気が心配でしたが、



第5福竜丸を見上げる多摩西部女性の会

が、とてもいい天気に恵まれました。第五福竜丸とは何のことなのか、まったくわからないま

ま第五福竜丸展示館に入りました。入るとすぐに大きな木造船がありました。それが第五福竜丸でした。この船は、

製造されてから72年も経つそうです。しかし保存状態はとても良かったです。この展示館に船を展示するにあたって、東京土建の組合員さんがとても力になったと聞きました。それを支えるように、地域の主婦の会の皆さんが、甘酒や豚汁などを作って差し入れていたそうです。この話を聞いたときに、東京土建と第五福竜丸が繋がっていたことを知り、とても驚きました。

第五福竜丸は、マクロはえ縄漁船として使われていました。1954年3月1日に夕焼けのような色の光が差し、光を見てから7、8分後、ドドドという大きな音が聞こ

## 久保山さんの言葉に残る

私は、広島や長崎での原爆は知っていましたが、戦争が終わった後でも水爆実験が行なわれていた事は知りません

この作品を演じる上で、少しでも朝鮮・韓国のことを知っておきたいと、6月19日に、新宿区大久保の「高麗博物館」メンバーで見学しました。「平和で歌える世の中が大切です。練馬支部の仲間もつと『コスモス』に参加して一緒に歌ってもらいたいですね」と野津さんは話してくれました。

## 西多摩 家族参加で平和のつどい 被爆体験を聞く

【西多摩】とび・高山勝宏通信員】7月7日、羽村生涯学習センターのレセプションホールにて、東京土建西多摩支部主催の平和のつどいを行いました。

この映画は、1956年の第1回原水爆禁止世界大会で被爆者救援運動として企画制作されたものです。原爆の後遺症に苦しんでいる人の「死



被爆体験を話す小田中さん

映画と被爆者の話を通じて、共通したことは、原爆は身体表面や放射能による内側の後遺症だけにあらず、その後遺症により、精神的にも死を考へ死に向かう負のバックトルが大きく作用することが感じ取れました。つどいの最後は、青梅音楽を愛する9条の会の皆さんによる合唱で、会場全体が歌による平和と非核化への意思統一となりました。